

平成30年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成30年4月19日(木)

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立台場小学校

【国語科】

1. 結果の概要

台場小学校では、昨年度の態度表明で次の3つの指導に重点を置くこととした。

①文法、熟語の指導②朝帯の時間を活用した漢字・語彙の習得。③考えを伝え合う活動を通したコミュニケーション力の育成。以上の取り組みを通して、平成30年度『品川区学力定着度』は以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、すべての学年で目標値と同程度という結果となった。

国語への関心・意欲・態度：3つの学年で目標値と同程度 2つの学年で目標値を上回っている。

話す・聞く能力：すべての学年で目標値と同程度。

書く能力：1つの学年で目標値と同程度。4つの学年で目標値を下回っている。

読む能力：3つの学年で目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

言語についての知識・理解・技能：4つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、ほぼ目標値と同程度という結果となった。

基礎的な問題：1つの学年で目標値を上回り、4つの学年で目標値と同程度。

活用の問題：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、2つの学年が上回り、2つの学年が下回る結果となった。

2. 具体的な課題

- ・2年生では、『話題に沿った質問をする』ことや『順序などを考えながら、内容を読み取ること』に課題がある。
- ・3年生では、「書くこと」の分野と「発表すること」に課題が見られた。
- ・4年生では、「読むこと」の分野に課題が見られた。
- ・5年生では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られた。
- ・6年生では、「読むこと」の分野に課題が見られた。
- ・全学年において、漢字を書くことに課題が見られた。

3. 課題の原因として考えられること

- ・2年生では、児童が『話すこと・聞くこと』を意識した活動が少なかった。
- ・3年生では、書く際の所与の条件を踏まえて書くことができていなかった。
- ・4年生では、読むための基本的な観点を理解していない。
- ・5年生では、学習した語彙を日常的に使う場面が少ないと考えられる。
- ・6年生では、読み取ったことを交流する機会が少なかった。
- ・全学年において、学習した漢字を日常的に使う場面が少ないと考えられる。

4. 課題解決のための方策

- ・2年生では、ペアやグループ活動などの少人数の活動を通して、『話す・聞くこと』への経験を増やしていく。
- ・3年生では、授業の感想など文章を書く機会を増やし、繰り返し書く経験を重ねて定着を図る。
- ・4年生では、文章を読み取るための観点を、2学期教材の学習を通して指導していく。
- ・5年生では、図書の日だけでなく、休日などを利用して家庭でも読書をする習慣化を図る。
- ・6年生では、読み取ったことをクラスで共有したり、発表させたりする。
- ・全学年において、学習した漢字を他教科の学習でも使用する指導をしていく。

5. 次年度の数値目標

国語	分類	目標正答率				
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	基礎	79%	84%	71%	71%	69%
	活用	61%	57%	63%	48%	50%
領域	話すこと・聞くこと	68%	92%	69%	57%	75%
	書くこと	70%	48%	65%	54%	57%
	読むこと	65%	77%	61%	75%	69%
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	91%	92%	77%	71%	64%
観点	国語への関心・意欲・態度	70%	65%	70%	56%	63%
	話す・聞く能力	68%	83%	69%	57%	61%
	書く能力	65%	52%	63%	49%	58%
	読む能力	64%	69%	60%	70%	64%
	言語についての知識・理解・技能	89%	91%	76%	70%	64%

【算数科】

1. 結果の概要

台場小では、昨年度の態度表明で次の4つの指導に重点を置くこととした。

①算数的活動を取り入れ、自力解決の時間を確保する。②様々な考え方を意識した授業を取り入れる。③特に図形の感覚を養うために、具体的操作活動を取り入れる。④算数の用語を教室内に掲示し、覚えなければならないことを習得させる。④多様な問題に取り組み、応用力を身に付けさせる。

上記の態度表明に基づき、算数的活動や具体的操作活動を取り入れ、自力解決の時間を確保してきた。また、高学年では放課後や土曜日に補充学習の時間を設定し、既習内容をくり返し学習してきた。

以上の取り組みを通して、平成30年度『品川区学力定着度』は以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、4つの学年で目標値と同程度、1つの学年で目標値を下回る結果となった。

算数への関心・意欲・態度：3つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回り、1つの学年で下回っている。

数学的な考え方：4つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を下回っている。

数量や図形についての技能：3つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回り、1つの学年で下回っている。

数量や図形についての知識・理解：4つの学年で目標値と同程度 1つの学年で下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、4つの学年で目標値と同程度、1つの学年で目標値を下回る結果となった。

基礎的な問題：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、2つの学年が上回り、2つの学年が下回った。

2. 具体的な課題

- ・2年生では、一の位、十の位などの概念が掴めておらず、「時間」の長針や短針の理解が十分でない。
- ・3年生では、数学的な考え方の観点と、時間と時刻ではの一定時間後の時刻を求めることに課題が見られる。
- ・4年生では、距離と道のりの理解が不十分である。時間を求める計算ができない。
- ・5年生では、分数とわり算に課題がある。数量や図形についての技能に課題がある。
- ・6年生では、小数・分数の計算に課題がある。円周や立体の面積を求めることができない。

3. 課題の原因として考えられること

- ・2年生では、時間を扱う授業時数がそもそも少なく、日常生活でも針のある時計を見る機会が少ない。
- ・3年生では、日常生活の中で、一定時間後の時刻を意識して読み取ったり、考えたりする経験が少ない。
- ・4年生では、計算の仕方や用語の意味を理解していない。
- ・5年生では、日常生活で見慣れない数(分数)や図形に対し、数量や形の感覚が身につけていない。
- ・6年生では、面積や体積を求める式は理解しているが、小数や分数の計算技能が未定着。

4. 課題解決のための方策

- ・2年生では、一の位や十の位の用語を用いて、数をいくつ分の集まりと捉えたり、図や具体物で表したりすることで、数の大きさについての感覚を掴ませる。また、日常の中で時間を尋ねるなど、時計を見る機会を増やす。
- ・3年生では、今から何分後など、時刻や時間を意識した指示をし、子どもが時間の感覚を掴み、正確に時刻を読み取ったり、時間を考えたりすることをできるようにする。
- ・4年生では、児童が苦手とする問題を復習として、宿題や授業の中で取り入れて定着を図る。
- ・5年生では、日常生活で見られる数を具体物に置き換えて指導をしていく。たし算、ひき算やかけ算など基礎基本の計算の習慣を図るために、宿題などで繰り返し練習問題に取り組みせ、定着させる。
- ・6年生では、基本的な計算方法を理解するために、朝の学習や家庭学習、ステップ算数を活用し復習する。

5. 次年度の数値目標

算数		目標正答率				
分類	区分	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	基礎	87%	83%	83%	65%	67%
	活用	71%	56%	61%	52%	48%
領域	数と計算	87%	79%	79%	69%	61%
	量と測定	83%	78%	77%	49%	70%
	図形	67%	79%	83%	45%	72%
	数量関係			82%	58%	55%
観点	算数への関心・意欲・態度	75%	68%	71%	46%	41%
	数学的な考え方	74%	67%	66%	56%	55%
	数量や図形についての技能	88%	84%	82%	62%	65%
	数量についての知識・理解・技能	85%	77%	78%	61%	72%

【社会科】

1. 結果の概要

台場小では、昨年度の態度表明で次の6つの指導に重点を置くこととした。

①3～6年まで基礎基本となる知識・技能を系統的・計画的に指導し、定着させる。②資料の読み取りに必要な円グラフや棒グラフなどの最低限の知識や技能を算数などの他教科と関連させながら習得させる。③学習資料を活用し、1つの資料だけではなく、複数の資料を読み取る力を習得させる。④自分の考えをもたせ、表現させる時間を確保する。以上の取り組みを通して学習を行ってきたが、平成30年度『品川区学力定着度』は以下のよう結果となった。

観点別…総合的にみると、1つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

社会的事象への関心・意欲・態度：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

社会的な思考・判断・表現：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

観察・資料活用の技能：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

社会的事象についての知識・理解：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、1つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

基礎的な問題：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：2つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、1つの学年が上回り、1つの学年が下回った。

2. 具体的な課題

- ・4年生では、地図記号の意味や公共施設の役割などの理解が不十分。買い物の購入の際の留意点などの社会的事象から理由や根拠を考えるのが苦手。
- ・5年生では「安全なくらし—交通事故や事件」、「くらしをささえる水」の単元に課題が見られる。
- ・6年生では世界の大陸や日本の産地などの具体的な知識の定着が不十分。農業や水産業、工業などの具体的な働きや役割などの理解が不十分。

3. 課題の原因として考えられること

- ・4年生では地図記号や社会科的用語の理解が不十分。グラフや表などの資料の読み取りが苦手である。
- ・5年生では図や表などの資料の読み取りが苦手で、社会的事象を具体的に把握することができない。
- ・6年生では基本的な社会科的な用語を使用する経験が少ない。グラフや表などの資料の読み取りが苦手である。

4. 課題解決のための方策

- ・4年生では地図記号や社会科的な用語の定着を図るために、反復的な学習を行う。資料の見方を提示し、基本的な資料の読み取りが行えるようにする。
- ・5年生ではICT機器を活用し映像や施設見学などを通して、具体的に社会事象を理解できるようにしていく。表やグラフなどの読み取りに必要な視点を提供していく。
- ・6年生では写真資料や世界地図などの具体的な学習教材を活用した授業を行う。表やグラフなどの読み取りに必要な視点を提供していく。また、基礎的な社会科的用語を授業の最初にクイズ形式で出すなどし、復習していく。

5. 次年度の数値目標

社会		目標正答率		
分類	区分	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	基礎	71%	56%	53%
	活用	43%	45%	51%
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	58%	55%	54%
	社会的な思考・判断・表現	56%	50%	55%
	観察・資料活用の技能	69%	53%	52%
	社会的事象についての知識・理解	67%	55%	53%

【理科】

1. 結果の概要

台場小では、昨年度の態度表明で次の3つの指導に重点を置くこととした。

- ①身近な自然を対象として、自らの諸感覚を働かせた体験を通じて主体的に問題を見いだせるようにする。
- ②自然についての興味・関心をもち、既習の知識や技能、学び方などを活用し、科学的な見方や考え方を再構築させるようにする。
- ③自然の事物・現象を的確に捉え、課題を明確にした観察、実験を重視した授業を展開する。
- ④学んだことを生活に生かしていくよう、理科の学習と日常生活との関連を図った内容や方法を充実できるように工夫する。
- ⑤「台場授業メソッド(問題解決学習)」を導入し、考えたり、説明したり、話し合ったりする場を設定し、問題解決する力を身に付けさせる。

上記の、態度表明に基づき、これまで一人一人に教材を与え、全員が教材に十分触れるようにしてきた。また、方位磁石やモーターや乾電池、回路など働きを調べ、教材に十分に触れ、実験の結果、考査、まとめをノートに確実にまとめることで理解を深めることに取り組んできた。

しかし、以上の取り組みを通して学習を行ってきたが、平成30年度『品川学力定着度調査』で以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、1つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

自然事象への関心・意欲・態度：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

科学的な思考・表現：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

観察・実験の技能：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

自然事象についての知識・理解：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

基礎的な問題：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：1つの学年で目標値を上回り、2つの学年が下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、2つの学年が上回り、日々の指導が生かされた。

2. 具体的な課題

- ・4年生では、実験から結果を考察することが難しい。
- ・5年生では、物質エネルギー自然事象の理科的な用語などの理解に課題がある。
- ・6年生では、植物の発芽と成長と顕微鏡の使い方を理解していない。

以上のように基礎的基本的な知識理解をはぐくむことに課題がある。

3. 課題の原因として考えられること

- ・学んだことを言語化することが苦手である。
- ・日常生活で見慣れない事象や概念をイメージする感覚が乏しい。
- ・成長の様子を続けて観察する経験がとぼしく、顕微鏡やスライドガラスを使う経験が少ない。

4. 課題解決のための方策

- ・実験・観察といった体験的な活動を今後も取り入れ、結果からわかることを理科で学習する用語を用いて記述させたり、説明させたりしていく。
- ・実験時に観察するポイントやねらいを明確にした指導をし、実験だけでなく、映像などを使い、多様な学習場面を増やす。
- ・継続して観察したり、気づいたことをまとめたりすることができるよう、計画的に指導を行うことや、実験の仕方や手順をしっかりと理解させた上で学習を行う。

5. 次年度の数値目標

理科	目標正答率			
	区分	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	基礎	76%	69%	62%
	活用	65%	49%	56%
領域	物質・エネルギー	65%	65%	63%
	生命・地球	81%	64%	60%
観点	自然事象への関心・意欲・態度	81%	66%	49%
	科学的な考え方	67%	59%	61%
	観察・実験についての技能	86%	69%	56%
	自然事象についての知識・理解	73%	66%	61%